

対象	小学校高学年以上
教科	国語科
該当 単元	小学6年～ 読解力を付ける
教科書	
掲載日	2019.5.17. 朝刊 浜松市民版

# 葵祭の伝統「育てて」

平安の王朝絵巻を繰り広げる京都三大祭りの一つ「葵祭」で、行列の一行が胸や頭に飾るフタバアオイを児童に育ててもらおうと、祭りを支援する市民団体「葵の会浜松」の宮城太会長(73)が16日、浜松市中区の追分小学校に約30株を贈呈した。1400年の歴史を持つ伝統文化への理解を深めながら1年かけて育てる。(鎌倉優太)

## 市民団体が追分小にフタバアオイの株

### 来年4月 京都に返還



宮城太会長からフタバアオイの贈呈を受ける児童ら＝浜松市中区の追分小で

- ① 葵祭では毎年一萬本のフタバアオイを必要とするが、近年は地元の上賀茂神社(京都市北区)だけで賄うことが難しくなっている。株分けして学校や企業で育ててもらい、一部を神社内の「葵の森」に戻してもらおう「葵プロジェクト」が二〇〇六年から続けている。
- ② 家紋がフタバアオイに由来すると思われる徳川家ゆかりの浜松城や犀ヶ崖が近い追分小の児童に、地元の歴史や文化に触れてほしいと、河口裕之教諭らが参加を提案した。映像などを通じ祭りの歴史を学んできた五、六年六十五人が、校内
- ③ 葵祭への協力は市内では北星中(北区)、県居小(中区)、双葉小(中区)に続き四校目。北星中の生徒が二〇年四月末に修学旅行で京都を訪れ、四校を代表して大きくなった苗の一部を葵の森に返す。苗はさらに一年、森で育てられ二一年五月の祭で使われる。
- ④ 六年の中野友貴君(三)は「伝統あるお祭りなので、大切に苗を育てていきたい。いつか、大人になったら葵祭を見に行きたい」と話していた。

※ 本文の段落のはじめにある数字は、その段落の番号を示しています。

問1：フタバアオイは葵祭でどのように使われますか。

( )

問2：フタバアオイはこれからどのように育てられますか。

① 2019年5月～ ( ) や ( ) で育てる。

② 2020年4月 苗の一部を ( ) に返す。

③ 2021年5月 葵祭で使われる。

問3：京都の葵祭に浜松市の小学校が関わってる理由についてまとめるには、ど

の段落を中心に読めばよいですか。

第 ( ) 段落

発展：見出し 葵祭の伝統「育てて」 に込められた意味について話し合ってみましょう。

## 【活用にあたって】

子どもたちの読解力が低下しているとよく言われます。文学的な文章を想像豊かに読むことができないということではありません。教科書や新聞など事実について書かれた文章を正確に読めないというのです。

読解力を付けるには、語彙力、言葉の数を増やすことです。そのためには、新聞や文学作品などの活字に接することが何よりも大切に思います。

文章の叙述を基に、何がどう書かれているのかを捉えることから「読むこと」は始まります。これができて初めて「精査・解釈」「考えの形成」「共有」と学習を進めていきます。何がどう書かれているかという内容を把握する力は、新聞記事を丁寧に読むことで身に付けることができます。

### 解答例

問1：行列の一行が胸や頭に飾る

問2：①学校・企業 ②葵の森（京都）

問3：2

発展：葵祭の伝統を継承していくこととその継承のためにフタバアオイを育てて京都に返還すること。この二つについて話し合えるとよいと思います。